茶の里

発行日：令和５年１２月１９日
発行者：さはら小学校長 相田　清美
さはら小学校だより 第１８号
TEL　0295-78-0009

学校行事・校外学習から得られること

【１２月４日（月）校内マラソン大会】

晴天の中、全児童が参加したマラソン大会。小規模校だからこそできる一斉スタート。交通安全母の会の皆さんによる走路の安全確認。保護者やご近所の方の励まし。ゴール直前の上り坂。

走ることが得意な児童も苦手な児童も、全員が最後まで一生懸命走りきった感動的なマラソン大会でした。母の会の皆さんは最後まで頑張って走る児童と一緒に走ってくださいました。大きな励みになったと思います。温かさと優しさに包まれたマラソン大会、皆様のご協力に感謝いたします。

【１２月５日（火）１～４年生 遠足】

栃木県「なかがわ水遊園」への遠足でした。３・４年生の班長さんを中心に、見たことのない魚や植物を見たり、触ったことのない魚に触れたりとグループごとに見学しました。上級生としての責任、先生に頼らず自分たちで考えて行動しようとする向上心や団結力等、低・中学年として、それぞれの遠足での目的を達成できたようです。もちろん、公共の場でのルールやマナーを守ることもできました。

【１２月８日（金）５・６年生 修学旅行】

朝６時に学校を出発し、様々な職業体験ができる「キッザニア東京」と現代アートの最先端を体験できる「チームラボ豊洲」への修学旅行。各事業所ごとに制服を着て、実際に作ったり動いたりしながら「仕事」の一部を体験し、給料を貰う（キッザニア専用通貨）システム。一人２種類の仕事体験でしたが、学校では体験できない多種多様な「仕事」の一端を見たり体験したりすることができました。

「チームラボ豊洲」では、素足になって水の中を歩いたり、現代のテクノロジーを使った光や花による空間アートを見たり触れたりしながら非日常的な空間を楽しみました。３時間３０分かけてでも行ってよかったと思える、現地でなければできない体験をすることができました。今後も、様々な形でキャリア教育を継続して参ります。

＜裏面に続く＞

○令和５年度　茨城県読書感想文コンクール出品作品
３年　戸村　勇人さん
FMだいごで本人による朗読が放送されました。

主人公と自分の共通点から動物愛護や生命についてを感じ取り、自分を見つめた３年生らしい素直な感想文です。ぜひ、ご一読下さい。

「大切な家族」

さはら小学校　３年　戸村　勇人

ぼくはこの本を読んで、主人公の光夫と同じだなと思うところが二つありました。ハムスターを飼っているところと、少年野球をやっているところです。

光夫が飼っているハムスターはチューといいます。知り合いから引き継いだそうです。ハムスターは夜行性なので、夜には活発に動きます。光夫はハムスターのかごの中に回し車やご飯の箱などを用意しました。

ぼくも、まるというハムスターを飼っています。今年野球を頑張るという約束で、お父さんが買ってくれました。本格的に動物を飼うのは初めてです。チュート同じようにプラスチックの家に木くずをしき、器や水を飲むボトルなどを置きました。ハムスターは、目が悪いので何でもかんで確かめます。光夫もチューにかまれていましたが、ぼくもまるにかまれたことがあります。とても痛かったです。小さかった体も今ではまんまるです。ぼくの家族もかわいくてたくさん声をかけています。

チューは、毎日散歩していました。台所で自由に走り回っています。ハムスターはストレスがたまりやすいので、時々散歩をしなければなりません。まるも、週１回床の間で散歩をしています。家から出してあげると元気よく走り回ります。においをかいで周囲の安全を確かめます。人間と同じでストレスをためないように、気を付けなければいけないのだと思いました。

光夫は一生懸命野球を練習しているので、外野のポジションにえらばれました。ぼくも、２年生の夏から少年野球を始めました。まだまだボールをキャッチするのが苦手です。毎日、家の庭でお父さんと練習しています。光夫が野球を頑張れているのは、チューのおかげだと思います。つかれているときに、チューのね顔を見たらいやされると思います。ぼくも、まるのね顔がかわいくてたまりません。まるがおうえんしてくれていると思って、これからも野球を頑張りたいです。

ハムスターは、一年で４０歳ぐらい年を取ります。まるは、だいたい３０歳ぐらいです。チューは、一年過ぎてまもなく亡くなってしまいました。背骨がおれていたそうです。光夫やお父さんたちは、とても悲しかったと思います。土にうめて、お線香をあげていました。いつかまるも亡くなってしまうのだと思うとさみしいです。今は、元気に走り回ったりご飯を食べたりしていますが、人間と同じで病気やケガをすることがあると思います。

ぼくは、まるのお世話をほとんどしていません。ご飯をたまにあげるくらいです。この本を読んで、動物を飼うためには愛情をもってお世話をしなければならないのだと学びました。まるのために何ができるのかを考え、自分から進んでお世話をしていきたいです。.

図書名　ハムスターのチュー
著　者　茨木　昭
出版社　岩崎書店